

(8) 消化器系疾患分野

腹膜偽粘液腫

1. 概要

研究代表者らは 2008 年に特定非営利活動法人腹膜播種治療支援機構を設立し、PMP 患者の本邦における実態を調べてきた。機構の所属病院で扱った症例は 5 年間で 623 例（男 199 例、女 424 例）と世界でも類を見ない多数例となった。このうち、387 例に対し、術前化学療法・腹膜切除・温熱療法を行なった。これら症例の切除標本・予後を解析したところ、組織学的悪性度・転移の分布定量評価法・切除の方法が重要な予後因子であることが判明しつつある。この研究では本邦における PMP の発生頻度・組織学的悪性度と予後の関連・転移のメカニズムの解明・安全で根治性の高い手術療法の確立・有効な化学療法の確立などが解明できると考えている。

2. 疫学

イギリスの Brendan Moran の研究では、腹膜偽粘液腫 pseudomyxoma peritonei（以下 PMP）は、100 万人に 1 人の割合で発生する稀な疾患である。しかし、本邦における発生頻度・発生原因はまったく解明されていないのが現状である。そこで、この研究で日本の外科・産婦人科病院 1220 箇所にて過去 5 年間に経験した腹膜偽粘液腫のアンケート調査を行い、本邦での発生頻度を解明する予定である。

3. 原因

原因はまったく不明である。PMP の組織分類は播種性腹膜粘液腺腫症（DPAM）と腹膜粘液性癌腫症（PMCA）がある。最近、悪性では上皮増殖因子受容体（EGF 受容体）が発現していることが報告されている。我々が経験した症例の切除標本の遺伝子発現・免疫染色を行い、異常発現している遺伝子を同定するとともに、予後との関連を調べる。

4. 症状

特徴的な症状は認めない。腹部の異常な膨隆・腹水の貯留による呼吸困難・急に出現するソケイヘルニア・虫垂炎様症状・人間ドックの超音波検査で腹水が指摘された、などの症状が見られる。

5. 合併症

尿管の圧迫による腎機能低下・腸管に穿孔することによる腸漏・膀胱に穿孔することによる膀胱漏・腸閉塞・稀に胆管の圧迫による黄疸・胸腔転移による呼吸困難などが見られる。

6. 治療法

治療法では全身化学療法は効果が低く、腹膜切除による腫瘍の完全切除と微小な遺残腫瘍を術中温熱化学療法で治療することが唯一の方法である。これは研究代表者らが運営している国際腹膜播種学会（Peritoneal Surface Oncology Group International）による第 7 回 Peritoneal Surface Malignancy Workshop（Uppsala, 2010. Sep. 8-10）でコンセンサスが得られている。

PMP は腹部全体に転移した例が多く、完全切除するには腹膜切除しか方法がない。しかし、腹膜切除を安全に施行するには 70~130 例という膨大な数の Learning curve が必要である、この疾患を治療する医療施設では外科医・泌尿器科医・婦人科医・麻酔医・ICU 担当看護師・病理医による治療チームを作り、一人一人の患者に最適な治療ができる体制ができていなければならない。発生頻度の少ない PMP の治療を安全に高い治癒率で施行とするには、トレーニングが十分されたチームによる集中的治療が不可欠である。

7. 研究班

研究代表者：

米村豊	発生頻度の解明 治療法の開発	金沢大学大学院・医学部・1973年・医学博士・外科	特定非営利活動法人 腹膜播種治療支援機構(岸和田徳洲会病院・草津総合病院)腹膜播種センター	理事長・センター長
-----	-------------------	---------------------------	---	-----------

遠藤良夫	遺伝子発現異常の解明	北里大学大学院水産学研究科・1989年・水産学専攻博士	金沢大学・がん研究所	准教授
三浦真弘	転移機構の解明	筑波大学大学院人間総合科学研究科・基礎医学系神経生理学・1986年・医学博士	大分大学院医学系研究科・生体構造医学講座	講師（学内准教授）
片山寛次	温熱化学療法の有効性	金沢大学大学院・医学部・1987年・医学博士	福井大学医学部附属病院がん診療推進センター	センター長診療教授
藤田拓司	婦人科領域の偽粘液腫の発生	九州大学医学部医学科・1992年・医学博士	田川市立病院・産婦人科	部長
宮本謙一	抗がん剤濃度の薬理動態	金沢大学薬学部・1972年・薬学博士・化学療法学・薬物動態学	金沢大学附属病院・薬剤部	教授・薬剤部長
平井一芳	疫学的解析	福井大学大学院・2006年・医学博士	福井大学医学部国際社会医学講座環境保健学領域	助教
平野正満	安全な外科治療の開発	滋賀医科大学医学部大学院・1988年・医学博士	草津総合病院・外科	部長
水本明良	安全な外科治療の開発	滋賀医科大学医学部大学院・1992年・医学博士	草津総合病院・外科	手術部部長
石橋治昭	安全な外科治療の開発	京都府立医科大学大学院・1983年・医学博士	岸和田徳洲会病院・外科	腹膜播種科医員
賀集一平	病理学的検討	京都大学・医学部・1971年	草津総合病院・病理検査科	部長